



グリーン交悠録

榎本一彦氏との出会いと 「グリーン交悠録」九州編



本誌主幹

大中吉一

古賀ゴルフ・クラブ

九州・中洲の3兄弟

今回の交悠録は懐かしく思い出深い友人をご紹介します。

日本債券信用銀行の颯川史郎氏とお会いした時に、

「大中さん、世の中には似た人が3人いるといいますが、私の友人にあなたにそっくりな人が1人います。ぜひお会いなさい」

そう言って紹介されたのが、福岡地所の榎本一彦氏でした。

九州に来る事があれば連絡をするようにとの颯川氏のご指示に従うと、今度は私と榎本氏が、当時の西鉄グランドホテルのロビーで初対面のお互いを探すという趣向で、先に到着した私が待っていると、榎本氏が入ってきました。なるほど、ひと



榎本一彦氏

目見てこの人だと認識できるほどよく似た容姿でした。

その晩は博多の「嵯峨野」という料亭にご案内いただき、私と榎本氏の交悠録がスタートいたしました。その晩は料亭を出ると中洲の街を散策しましたが、そこで偶然に西鉄ライオンズの稲尾和久氏に遭遇いたしました。

稲尾氏は当時、スタルヒンに並び史上最多タイとなるシーズン42勝を挙げ、1958年の日本シリーズでは3連敗の後に4連勝で西鉄ライオンズを勝利に導いた大投手です。日本シリーズでは7試合中6試合に登板し、第3戦以降は5試合に連続して先発し4完投。「神様、仏様、稲尾様」と言われた歴史に残る大投手です。

稲尾投手もまた私にそっくりな容姿で、榎本氏と稲尾投手、そして私が「3兄弟」と呼ばれ、夜の中洲を徘徊したことを今でも鮮明に覚えています。

その後、榎本氏は日本青年会議所（JCI）の会頭になられ、いよいよ私との交悠録が深まることとなりました。

後日談ですが、榎本一彦氏は、JCI会頭を退任された後は九州に戻り、「自身の事業である「福岡地所」の経営に専念され、福岡市のランドマークとなる大型施設やオフィスビルを次々と手がけ、福岡市の発展に大きな功績を残されました。

特に「チャンネルシティ博多」の開設に当たっては、様々な苦労を重ね、福岡を代表するデベロッパーとしての地位を確立。その後も「福岡地所」は「マリノアシティ福岡」、「リ



チャンネルシティ博多

私は年に4〜5回は福岡を訪れ、九州政財界とのゴルフ交悠録を重ねました。榎本氏には多くの九州財界人をご紹介いただきましたが、最初に紹介していたのは、福岡相互銀行の四島司氏でした。四島氏はその後、福岡シティバンク、そして現在の西日本シティ銀行の頭取を歴任されました。四島氏は「ベスト電器」や「ロイヤル」、「カメラのドイ」、「ゼンリン」など九州財界の若手経営者を育成し、上場企業まで押

パーウォーク北九州」、「木の葉オーバル橋本」など様々な商業施設を手がけ、九州・福岡の発展に大きく寄与し、九州のみならず日本有数のデベロッパーとなったことはご承知の通りです。

九州における

グリーン交悠録

上げた立役者とも言える大頭取です。

ゴルフのプレイも素晴らしく、幾度となくトーナメントの名場面を演出した九州屈指の難コース「古賀ゴルフ・クラブ」や、「芥屋ゴルフ倶楽部」といった名門コースで一緒にいたしましたが、四島氏のゴルフがとても紳士的であったことを今でも覚えております。

九州のグリーン交悠録では、JCIの会員でもあった大宰府天満宮の西高辻信良第49代宮司ともよく一緒に絡みました。九州の守護神とも言える大宰府天満宮の宮司との出会いは貴重であり、高辻氏とは長い付き合いをさせていただいております。

こうした九州でのゴルフの番外編が、中洲にあった高級クラブ「薊」^{あざみ}でした。今は亡き安倍晋太郎氏や石原裕次郎氏、そして川口松太郎氏なども足繁く通った「薊」は、九州を代表する政財界、そして文化人の社交場だったのです。

政財界の物が東京から九州を訪れる際には必ず足を運んだといわれる場所でした。中洲において、この「薊」のライバル店とされていたの

が「みつばち」という店で、この2店は「夜の商工会議所」と呼ばれていたほどです。

この「薊」のオーナーだった大山幸子ママのもとで30年間活躍したのが溝口千景ママです。元ミス長崎という経歴の持ち主で、その美貌を買われてスカウトされたという溝口ママは、その後自分で店を持たれましたが、九州政財界での顔の広さは抜群で、私も数多くの名士をご紹介いただきました。私の九州でのグリーン交悠録には欠くことのできない存在です。

以前にも申し上げましたが、グリーン交悠録は、単にゴルフを楽しむだけのものではなく、人と人との繋がりがあると思います。朝から1日をともに過ごし、時々の会話を楽しみ、1番ホールから18番ホールまでのプレイぶりを拝見し、そして19番ホールでさらに親交を深める。お互いの素晴らしいプレイを学び、さらに新しい仲間を開拓する。これこそがグリーン交悠録の醍醐味です。グリーン交悠録を通じて人生の幅を広げ、深さを掘り下げていただければと思います。